

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第13回 伝統の戒め
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-07-18
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6240

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第13回

てきた材料の加
工の禁止が揺ら
いでいる。
北国海道の宿
場町であった金
津では、江戸時
代に参勤交代の
お殿様を「飾り物」でもてな
したことから、毎年7月に開
催される「金津まつり」にお
いて、18の区ごとに「本陣飾
り物」と呼ばれる「一式飾り」
同様の作品を飾り、コンク
ールで競っている。

私は毎年、金津へ調査に訪

れ、コンクールの審査も行っ
ているが、年々リサイクル用
品を加工した「工作」のよう
な作品が増えている。
昨年は、古新聞を裂いて小
さなコヨリを作り、それを大
量に用いたお稻荷さんのキツ
ネや、大量の割りばしを貼り
合わせた戦艦が登場した。ま
た「リサイクル八岐ノ大蛇」
という作品は、廃材となった
段ボールを切り抜いてパーツ
を作り、それをペーパークラ
フトのように組み合わせた牙
ロチを飾っていた。

エゴが重視される時代に合
わせ、伝統が変化するのは当
然かもしれないが、これから
は材料の加工を認める「リサ
イクルアート」が主流になる
のだろうか。

私がこれまで見た「本陣飾
り物」の中に、忘れられない
作品がある。それは写真の「蓮
如上人祈りの道」という作品
で、2013年7月に天王区
の人たちが古本一式で作った。
作品の「顔」に注目してほ
しい。ただ古本を重ねただけ
なのに、水分を含んで波打っ
た紙が、自然と顔の表情に見
えてしまう。制作者の「見立
て」の極意を見える気がする。

このような記憶に残る作品
が生まれたのは、材料の加工
の禁止のおかげではないだろ
うか。材料の加工を禁じられ
れば、人は想像力を駆使し
て、材料の特徴的な形から何
か別のものを連想するしかな
い。この「一式飾り」の伝統
の戒めこそ、制作者に「見立
て」の趣向を求め、創造的な
作品を生み続ける原動力だと
思う。

読者の皆さんは、「一式飾
り」に長く守られてきたルー
ルがあることを、ご存じだろ
うか。大きく分けて三つある。
一つ目は、作品に用いる材
料は同種のものであること。
身の回りにもあるものの中か
ら素材(何でできているか)
が同じか、用途(何に用いる
か)が同じものを集めて「一
式」としなければならぬ。
二つ目は、作品のテーマが
時事的であること。その年の
干支や話題の人物、出来事な
ど、世相を映す作品に仕上げ
なければならぬ。
そして三つ目は、作品を
飾った後は解体し、作品に用
いた材料を再び使用できる状
態に戻すこと。このため、材
料を加工してはならない。
連載の第8回で紹介した、
野菜一式を用いる富山県の福

いまし 伝統の戒め



思